

新年会記念俳句会優秀作品

平成二十年 一月二十八日

初鏡

天

紅さして あでやかなりし 初鏡

丸山 征夫

地

初鏡 仁王立ちして 鬚を剃り

坂本 洋司

人

一年の 笑顔を誓う 初鏡

星野 健司

佳作

初鏡 父似の姿 その中に

馬場 茂夫

初鏡 晴れ着の童女（わらべめ） うれしげに

嘉瀬 修

初鏡 今朝はバツチリ ハイチーズ

西巻 克郎

初鏡 しみじみながむ 今朝の妻

佐藤 栄祐

飲みすぎて むくみ顔見る 初鏡

西巻 克郎

初鏡 自信あふれる 顔があり

馬場 信彦

初鏡 白髪に想う 年月を

大溪 秀夫

初鏡 孫と見る顔 若返り

熊倉 高志

初鏡 孫と並んで 無事願う

渡邊 久晃

冬の雨

天

音消えて 外白くなる 冬の雨

熊倉 高志

地

冬の雨 子らを見守る ボランテイヤ

佐藤 秀夫

人

襟たてて 急ぐ家路に 冬の雨

丸山 征夫

佳作

雪つりが 何故か寂しい 冬の雨

こちよく 眠りを誘う 冬の雨

旅の宿 雷雲轟く 冬の雨

さようなら 傘もささずに 冬の雨

冬の雨 なぜか心の 暖まる

夕暮れに 何を急ぐか 冬の雨

雪国の 春未だ遠き 冬の雨

冬の雨 いつかこの身も 名水に

どんよりと 心さみしい 冬の雨

ふつくらの 雪化粧流す 冬の雨

工事場の 猛暑と比ぶ 冬の雨

冬の雨 枯山水へ 棚引いて

亡き母の 微笑みやさし 冬の雨

小雀の なおも寄り添う 冬の雨

冬の雨 墨絵のごとし 信濃川

写経終へ 膝をくずして 冬の雨

吹雪より 気分落ち着く 冬の雨

登校の 傘の列来る 冬の雨

ぬるめ酒

天

初孫の 無事を祝うて ぬるめ酒

地

ぬるめ酒 妻と語ろう 夕餉あり

人

亡き友を 語りて悲し ぬるめ酒

星野 健司

木原 崇

大溪 秀夫

佐々木 常行

坪井 正康

田中 悌司

馬場 信彦

荒澤 威彦

西卷 克郎

佐藤 秀夫

佐藤 栄祐

坂本 洋司

馬場 茂夫

嘉瀬 修

滝口 恵介

馬場 茂夫

住谷 哲雄

馬場 茂夫

木原 崇

馬場 信彦

田中 悌司

佳作

さし向かふ	兄と弟	ぬるめ酒	馬場	茂夫
ぬるめ酒	肴は炙った	するめイカ	長谷川	晴生
七十才 <small>(ななそじ)</small> の	腹もなつとく	ぬるめ酒	滝口	恵介
除夜の鐘	卒寿の父の	ぬるめ酒	坂本	洋司
子供らと	話しはずんで	ぬるめ酒	佐藤	秀夫
ほろ酔いに	時を忘れる	ぬるめ酒	西巻	克郎
湯上りの	スルメは美味し	ぬるめ酒	佐々木	常行
故郷や	人恋しくて	ぬるめ酒	大溪	秀夫
飲む程に	耳たぶ火照り	ぬるめ酒	熊倉	高志
居酒屋で	古き畏友と	ぬるめ酒	丸山	征夫
湯上りの	味わい深し	ぬるめ酒	鈴木	武
ぬるめ酒	孫の寝息と	除夜の鐘	鈴木	武
酔う程に	十八番 <small>(おほこ)</small> 飛び出す	ぬるめ酒	西巻	克郎

選者吟

わが眉の めで 白髪芽出たし 初鏡
 ぬくめ酒 あしたを語る 力湧く
 ビル風に 吾が身を いと 厭う冬の雨

武藤昭三先生

